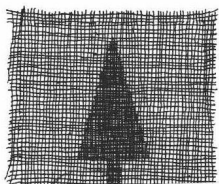




おかしい話

ちくま文学の森 5

筑摩書房



おかしい話 (ちくま文学の森5)

一九八八年四月二十九日 第一刷発行

編者 安野光雅 (あんの・みつまさ)

森毅 (もり・つよし)

井上ひさし (いのうえ・ひさし)

池内紀 (いけうち・おさむ)

発行者 関根栄郷

発行所 株式会社 筑摩書房

東京都千代田区神田小川町二一八 ☎ 二〇一九一

電話東京二九一七六五一 (営業)

二九四一六七一一 (編集)

振替口座東京六一四二二三

装本 安野光雅

印刷所 三松堂印刷

製本所 鈴木製本所

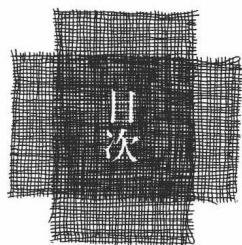
本書の定価はカバーに表示してあります。

落丁本・乱丁本はお取りかえいたします。

©M. ANNO T. MORI H. INOUE O. IKEUCHI

1988 Printed in Japan

ISBN4-480-10105-5 C0393





おかし男の歌

.....

長谷川四郎

2



太陽の中の女

.....

ポンテンペルリ 岩崎純孝訳

5

死んでいる時間

.....

エーメ 江口清訳

15

粉屋の話

.....

チヨーサー 西脇順三郎訳

41

結婚申込み

.....

チェーホフ 米川正夫訳

67



勉強記

.....

坂口安吾

97

ニコ狎先生

.....

織田作之助

129

いなか、の、じけん抄

.....

夢野久作

145

あたま山

.....

八代目 林家正蔵演

161

大力物語

菊池 寛

173



怪盗と名探偵抄

カミ 吉村正一郎訳

187

ゾツとしたくて

旅に出た若者の話

グリム 池内紀訳

201

運命

ヘルタイ 徳永康元訳

223

海草と郭公時計

T・F・ボイス 龍口直太郎訳

237

奇跡をおこせる男

H・G・ウェルズ 阿部知二訳

259



幸福の塩化物

ピチグリッリ 五十嵐仁訳

295

美食倶楽部

谷崎潤一郎

339

ラガド大学参観記

.....

牧野信一

.....

397

本当の話抄

.....

ルキアノス

呉茂一訳

.....

419



形容詞「をかし」について

岡新助講師の最後の講義

解説にかえて

...

井上ひさし

.....

464

おかしい話

おかし男の歌

長谷川四郎

おかし男

詩人だった

町角から

ふいと出て

it rains

cats and dogs

パイプに

火つけて

火と水の

音楽きかせ

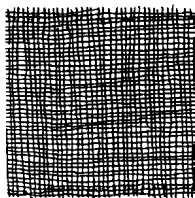
ふる雨とのぼる煙と
空にローマ字かいた

o my

lonelyhat

おかし男

もういない



太陽の中の女

ブルジョワの散歩

ボンテンペルリ

岩崎純孝訳

マッシモ・ボンテンペリ Massimo Bon-
tempelli 一八七八—一九六〇 イタリアの
コモに生まれる。大学で文学と哲学を学んだ
のち、田舎教師、ついでジャーナリスト。新
古典派の詩人としてデビュー。第一次大戦後、
マリネッティの未来派運動に参加。ローマに
住んで風変わりなユーモア作家として人気を
博した。文芸誌「二十世紀」を創刊し、伝統
を打破した新しいイタリア文学を提唱、自分
でも悲劇や喜劇、神秘小説など、あらゆるジ
ヤナルの作品に手を染めた。のちにファシズ
ムに関与、晩年は不遇のうちに死去。「太陽
の中の女」は一九二五—二七年の作を集めた
同題の短篇集の中の一編。

(原題 Donna nel sole)

五月のよく晴れた午後のことであつた。僕は空を一飛行して来ようと、僕の一番小さな飛行機に乗って出かけた。である辺まで来ると、僕の方へ向つて飛んで来る一台の飛行機に出遇つたのである。

（皆さんは、地上でもよく舗道などで、二人の者がぶつつかりそうな場合、どんな事が起きるかよく御存じと思う。）僕は彼と接触しないように、少し方向を更えた、すると彼の方でもかえつて同じ方によけて来た。で僕は反対の方へ避けた、すると彼もやっぱりそうするのだった。こうした事を二度繰り返した。僕はぶつつからざるを得ない。

僕の方は正当な事をしていたのである、なぜなら、僕は右へよけていたから、だのに相手はそうしなかつたのである。お蔭で僕は、その時にはますます接近しあつていた。

歩いてゐる人間同志なら事態は極めて簡単である、どんなに困り切つても二人が立ち止ればそれで済む、一時間でも一日でも立ち止つていればそれで済む、一日も時間を贅沢に使えば、そのうちには二人を引き離すような、何か予期しなかつた事件が必ず起るからである。しかし飛行機の場合では、少くも十分と停止している事は出来ない。地上ではこんな時、困つたような罪のない微笑をし合う。が空では違う。僕は、彼も同時に僕のようにしてくれないように念じながら、相手の上を越そうとした、すると彼は大変慎しみ深い（兵隊の場合な

ら適当な）方法をとった、つまり彼は廻れ右をして僕に背を向けたのである。もし僕の方でも同じ考えから廻れ右をしていたなら、僕達は決して知り合いにならなかったろう。

さてこうして彼は、僕の何を何事もなかったかのように平静に先導しているのだった、で僕はその後から飛んでいた。僕はスクリーンの轟音をさえ消してしまふ完全な拡声器で彼に叫んだ――。

「おい、右へよける事を知らないのか？」すると相手も拡声器をあてがった。こうして僕は無言の汚れない大気の中で、文句を附けたわけである。その時前機から返辞があった――。「ごめんなさい、度忘れしていたのよ。」この言葉は僕の胸を思わずドキッとさせた、それが女の人の声だったから。

僕は向う見ずの当て推量をすぐ後悔した。で習慣通り僕は前機の左側に並んだ。機からは彼女の優しい上半身が見えている、そして皮の帽子からはブロンドの髪が少しばかりはみ出ている。だが最初僕が彼女を眺めたわけではない。「やあ？」と僕は叫んだのである。「失礼しました、衝突しちゃ敵わないと思ったもので、つい……。並んでよごさんすか、いけませんか？ お嬢さん？……それとも御夫人？」「今んところお嬢さんよ。」黒い目を伏せながら彼女は答えた。「でも翼が接触しないように気を付けて頂戴な。」僕は数センチメートルの間隔を保った、しかし僕は相手の言葉を追窮するのを忘れなかった――。「（今んところ）っておっしゃると……じゃ御婚約の方があるんですか？」「あら、そうじゃないのよ。」彼女は、赧くなりながら答えた。「まだそんな事ないわ。」そして彼女は、深い光を含んだ黒い目をあ

げて僕を面と見るのだった。

この時少しばかり空中が暗くなったように思った。僕は彼女から目を逸らして前方を眺めた。僕は、灰色雲の大きな山が二つ、空漠たる大空の左右を占領して出現しているのを見た。しかしこの二つの空の真中の僕達の進路には、狭いが、明るい道がひらけているのだった。そして僕達はその入口のところに達していた。僕は速力を緩めた。「どうぞお先へ。」僕は紳士らしく彼女に言った。彼女は先へ出た。僕はその首にキッスしたい衝動を大いに覚えた。彼女の飛行機の後について僕はその通路を進んだ。雲は両側に高い壁のように屹立している。僕達の飛行機は明るい廊下を進んで行った。彼女の上半身は、前方の明るい光にくっきり姿を浮べている。光が確かにこの娘を誘惑したのである。そして彼女は僕を誘惑したのである。僕は少しもいらいらした覚えはない。かえってこうした飛行が終らなければいいがと思った位だった。僕は、どれだけ進んで行ったかを知らぬ。

やがてたちまちこの廊下から、広大無辺の光に満ちた宇宙が現われて来た。

僕はすぐ彼女と並んで、黙り合ったまま飛行して行った。

僕達は太陽の真中へ来ていたのだった。一瞬間僕は下を見おろした、僕達のずっと下の方で雲がはげしく騒いでいた。僕達の頭の前や後や周囲では、空気が金色をしていた、前方の遠い遠い涯では、電光が閃いている。その絶えまなく光る電光の中に、僕達はとうとう来てしまっていた。——彼女と僕と二人っきりだ。この考えで僕の心は浮々して来た。——彼女は黙っていた。彼女は太陽の真中へ来て、黙っている事が出来る女だった。光は、僕の体

を押し包むようにして暖めてくれ、幸福にしてくれる。あたりは全く珍らしい事ずくめであった。

やがて僕は、黙っているのが空恐ろしくなった、僕はもう黙っていられなくなった。彼女に話しかけたくなくなった。でも僕は彼女を何て呼んでいいか知らないのである。光は、空のあらゆる隅々から、もとの所へ休息しに戻って来るのだった。僕の気持は子供みたいになった。まだ彼女と口を利いたことがないかのように口を切った――。

「涯がないところは綺麗なんですね。方角というものもないんですね。こうやっていつまでも、僕は飛んで行きましょう。」

「あら。」と彼女は答えるのだった。「もうすぐわたしは戻らなきゃならないのよ。六時には家にいなくちゃ。わたしが遅くなろうがなるまいが、お父さんは何とも言やあしないけど、兄が怒鳴りだすんです。それにわたし、アリマーネを洗ってやらなきゃならないんですもの。」

「失礼ですが、アリマーネって誰です？」

「飛行機よ。」と娘は答えた。「あなたのは何てお名前？」

僕はたくさんある自分の飛行機に、名前を付けようと考えた事もなかった。自分のこんな軽蔑されてもいいような無感覚を、彼女の前にさらすのが恥しかった。すばやく想像を働かせて見たが、どんな名前も考えつかなかった。一番言いやすい名前も手近な名前すらも思い浮ばなかった。ジュゼッペと言う名前すら！ 光は僕の睫毛の前で明るく輝いている。名前